



# ブレード サーバハードウェア管理

---

- [Blade Server Management, on page 2](#)
- [ブレード サーバのブート, on page 3](#)
- [サービス プロファイルからのラックマウント サーバのブート \(4 ページ\)](#)
- [ブレード サーバのブート順序の決定 \(4 ページ\)](#)
- [ブレード サーバのシャットダウン, on page 5](#)
- [サービス プロファイルからのサーバのシャットダウン \(6 ページ\)](#)
- [ブレード サーバのリセット, on page 6](#)
- [ブレード サーバの出荷時のデフォルト設定へのリセット \(7 ページ\)](#)
- [ブレード サーバの再確認, on page 8](#)
- [シャーシからのサーバの削除, on page 9](#)
- [ブレード サーバからのインバンド設定の削除 \(9 ページ\)](#)
- [ブレード サーバの解放, on page 10](#)
- [存在しないブレード サーバエントリの削除 \(11 ページ\)](#)
- [ブレード サーバの再稼動 \(11 ページ\)](#)
- [シャーシ内のサーバ スロットの再確認, on page 11](#)
- [存在しないブレード サーバの設定データベースからの削除, on page 12](#)
- [ブレード サーバのロケータ LED の切り替え, on page 13](#)
- [ブレード サーバのローカルディスク ロケータ LED のオン/オフ切り替え \(13 ページ\)](#)
- [ブレード サーバの CMOS のリセット, on page 14](#)
- [ブレード サーバの CIMC のリセット, on page 14](#)
- [ブレード サーバの TPM のクリア, on page 15](#)
- [ブレード サーバの POST 結果の表示, on page 15](#)
- [ブレード サーバからの NMI の発行 \(16 ページ\)](#)
- [ブレード サーバのヘルス イベントの表示 \(17 ページ\)](#)
- [Health LED Alarms, on page 18](#)
- [Smart SSD, on page 19](#)

# Blade Server Management

You can manage and monitor all blade servers in a Cisco UCS ドメイン through Cisco UCS Manager. You can perform some blade server management tasks, such as changes to the power state, from the server and service profile.

The remaining management tasks can only be performed on the server.

The power supply units go into power save mode when a chassis has two blades or less. When a third blade is added to the chassis and is fully discovered, the power supply units return to regular mode.

If a blade server slot in a chassis is empty, Cisco UCS Manager provides information, errors, and faults for that slot. You can also re-acknowledge the slot to resolve server mismatch errors and to have Cisco UCS Manager rediscover the blade server in the slot.

## Guidelines for Removing and Decommissioning Blade Servers

Consider the following guidelines when deciding whether to remove or decommission a blade server using Cisco UCS Manager:

### Decommissioning a Blade Server

If you want to temporarily decommission a physically present and connected blade server, you can temporarily remove it from the configuration. A portion of the server's information is retained by Cisco UCS Manager for future use, in case the blade server is recommissioned.

### Removing a Blade Server

Removing is performed when you physically remove a blade server from the Cisco UCS Manager by disconnecting it from the chassis. You cannot remove a blade server from Cisco UCS Manager if it is physically present and connected to a chassis. After the physical removal of the blade server is completed, the configuration for that blade server can be removed in Cisco UCS Manager.

During removal, active links to the blade server are disabled, all entries from databases are removed, and the server is automatically removed from any server pools that it was assigned to during discovery.



---

**Note** Only servers added to a server pool automatically during discovery are removed automatically. Servers that were manually added to a server pool must be removed manually.

---

To add a removed blade server back to the configuration, it must be reconnected, then rediscovered. When a server is reintroduced to Cisco UCS Manager, it is treated as a new server and is subject to the deep discovery process. For this reason, it is possible for Cisco UCS Manager to assign the server a new ID that might be different from the ID that it held before.

## Recommendations for Avoiding Unexpected Server Power Changes

If a server is not associated with a service profile, you can use any available means to change the server power state, including the physical **Power** or **Reset** buttons on the server.

If a server is associated with, or assigned to, a service profile, you should only use the following methods to change the server power state:

- In Cisco UCS Manager GUI, go to the **General** tab for the server or the service profile associated with the server and select **Boot Server** or **Shutdown Server** from the **Actions** area.
- In Cisco UCS Manager CLI, scope to the server or the service profile associated with the server and use the **power up** or **power down** commands.



**Important** Do *not* use any of the following options on an associated server that is currently powered off:

- **Reset** in the GUI
- **cycle cycle-immediate** or **reset hard-reset-immediate** in the CLI
- The physical **Power** or **Reset** buttons on the server

If you reset, cycle, or use the physical power buttons on a server that is currently powered off, the server's actual power state might become out of sync with the desired power state setting in the service profile. If the communication between the server and Cisco UCS Manager is disrupted or if the service profile configuration changes, Cisco UCS Manager might apply the desired power state from the service profile to the server, causing an unexpected power change.

Power synchronization issues can lead to an unexpected server restart, as shown below:

Desired Power State in Service Profile	Current Server Power State	Server Power State After Communication Is Disrupted
Up	Powered Off	Powered On
Down	Powered On	Powered On

**Note** Running servers are not shut down regardless of the desired power state in the service profile.

## ブレードサーバのブート

[Actions] 領域で [Boot Server] リンクがグレー表示されている場合は、まず、サーバをシャットダウンする必要があります。

### Procedure

**ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

**ステップ 2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

- ステップ3 ブートするサーバを選択します。
- ステップ4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ5 [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。
- ステップ6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

---

サーバがブートされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [OK] ステータスが表示されます。

## サービス プロファイルからのラックマウントサーバのブート

### 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
- ステップ3 サービス プロファイルを作成する組織のノードを展開します。  
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ4 関連付けられたサーバをブートする必要があるサービス プロファイルを選択します。
- ステップ5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ6 [Actions] 領域の [Boot Server] をクリックします。
- ステップ7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ8 [Boot Server] ダイアログボックスで [OK] をクリックします。

サーバがブートした後は、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [ok] ステータスまたは [up] ステータスが表示されます。

## ブレードサーバのブート順序の決定



- ヒント サーバに関連付けられているサービス プロファイルの [General] タブからもブート順序タブを表示できます。

## 手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 ブート順序を決定するサーバをクリックします。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Boot Order Details] 領域が展開されていない場合は、見出しの右側の [Expand] アイコンをクリックします。
- ステップ 6 サーバに割り当てられているブート順序を表示するには、[Configured Boot Order] タブをクリックします。
- ステップ 7 物理サーバ構成内のさまざまなデバイスから何がブートされるかを表示するには、[Actual Boot Order] タブをクリックします。

(注) [Actual Boot Order] では、[Internal EFI Shell] は常にブート順リストの最下部に表示されます。

# ブレードサーバのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウンシーケンスがトリガーされます。

[Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのサーバは動作していません。



**Note** サービス プロファイルに関連付けられたブレードサーバをシャットダウンすると、VIF ダウンアラート F0283 および F0479 が自動的に制限されます。

## Procedure

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 シャットダウンするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ 6 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

サーバが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに電源オフ状態が表示されます。

## サービス プロファイルからのサーバのシャットダウン

この手順を使用して、インストールされているオペレーティングシステムとともにサーバをシャットダウンした場合、Cisco UCS Manager により、この OS のグレースフルシャットダウンシーケンスがトリガーされます。

[Actions] 領域の [Shutdown Server] リンクがグレー表示されている場合、そのサーバは動作していません。

### 手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Servers] をクリックします。
- ステップ 2 [Servers] > [Service Profiles] の順に展開します。
- ステップ 3 サービス プロファイルを作成する組織のノードを展開します。  
システムにマルチテナント機能が備えられていない場合は、[root] ノードを展開します。
- ステップ 4 関連付けられたサーバをシャットダウンする必要があるサービスプロファイルを選択します。
- ステップ 5 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 6 [Actions] 領域で、[Shutdown Server] をクリックします。
- ステップ 7 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

サーバが正常にシャットダウンされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに [down] ステータスまたは [power-off] ステータスが表示されます。

## ブレードサーバのリセット

サーバをリセットすると、Cisco UCS Manager により、リセットライン上にパルスが送信されます。オペレーティングシステムのグレースフルシャットダウンを選択することができます。オペレーティングシステムがグレースフルシャットダウンをサポートしていない場合は、サーバの電源を切ってから入れ直します。サーバをリセットする前に、Cisco UCS Manager にすべての管理操作を完了させるオプションでは、それらの操作がサーバのリセット前に完了する保証はありません。



**Note** 電源切断状態からサーバをブートする場合は、[Reset] を使用しないでください。

この手順を使用して電源投入を続けると、サーバの望ましい電源状態が実際の電源状態と同期しなくなり、サーバが後で予期せずシャットダウンすることがあります。選択したサーバを電源切断状態から安全にリブートするには、[Cancel] をクリックし、[Boot Server] アクションを選択します。

### Procedure

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 リセットするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で [Reset] をクリックします。
- ステップ 6 [Reset Server] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
  - a) [Power Cycle] オプションをクリックします。
  - b) (Optional) このサーバの保留中の管理操作を Cisco UCS Manager によってすべて完了させる場合は、チェックボックスをオンにします。
  - c) [OK] をクリックします。

リセットが完了するまでに数分かかる場合があります。サーバがリセットされると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに OK ステータスが表示されます。

## ブレードサーバの出荷時のデフォルト設定へのリセット

ブレードサーバを出荷時の設定にリセットできるようになりました。デフォルトでは、出荷時へのリセット操作は、ストレージドライブおよび flexflash ドライブに影響しません。これはデータの損失を防止するためです。ただし、これらのデバイスを既知の状態にリセットすることもできます。



**重要** ストレージデバイスをリセットすると、データが失われる可能性があります。

サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットするには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

**ステップ 2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

**ステップ 3** 出荷時のデフォルト設定にリセットするサーバを選択します。

**ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

**ステップ 5** [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

**ステップ 6** [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

- a) [Reset to Factory Default] をクリックします。
- b) [OK] をクリックします。

**ステップ 7** 表示される [Maintenance Server] ダイアログ ボックスから適切なオプションを選択します。

- すべてのストレージを削除するには、[Scrub Storage] チェックボックスを選択します。
- すべてのストレージを削除してからすべてのディスクを初期状態に戻すには、[Create Initial Volumes] チェックボックスを選択します。

[Scrub Storage] チェックボックスを選択した場合のみ、このチェックボックスを選択できます。JBOD をサポートするサーバの場合、ディスクは JBOD 状態になります。JBOD をサポートしないサーバの場合、各ディスクはディスク内のすべての領域を占有する単一 R0 ボリュームで初期化されます。

**重要** ストレージプロファイルを使用するには、[Create Initial Volumes] ボックスを選択しないでください。ストレージプロファイルを使用しているときに初期ボリュームを作成すると、設定エラーが発生する可能性があります。

- すべての flexflash ストレージを削除するには、[Scrub FlexFlash] チェックボックスを選択します。

Cisco UCS Manager サーバを出荷時のデフォルト設定にリセットします。

## ブレードサーバの再確認

サーバ、およびそのサーバのエンドポイントすべてを再検出する必要がある場合は、次の手順を実行します。たとえば、サーバがディスクバリ状態など、予期していなかった状態から抜け出せなくなっている場合に、この手順を使用します。

### Procedure

**ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

**ステップ 2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

**ステップ 3** 再確認するサーバを選択します。

**ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

**ステップ 5** [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。



**ステップ 6** [Maintenance] ダイアログボックスで、[Re-acknowledge] をクリックし、次に [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager はサーバを切断し、その後、サーバとシステム内の 1 つまたは複数のファブリックインターコネクタとの接続を確立します。確認が終了するまでに数分かかる場合があります。サーバが確認されると、[General] タブの [Overall Status] フィールドに OK ステータスが表示されます。

---

## シャーシからのサーバの削除

### Procedure

---

**ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

**ステップ 2** [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

**ステップ 3** シャーシから削除するサーバを選択します。

**ステップ 4** [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

**ステップ 5** [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

**ステップ 6** [Maintenance] ダイアログボックスで、[Decommission] をクリックし、[OK] をクリックします。サーバが Cisco UCS 構成から削除されます。

**ステップ 7** シャーシの物理的な配置場所で、スロットからサーバハードウェアを取り外します。

サーバハードウェアの取り外し方法については、お使いのシャーシの『*Cisco UCS Hardware Installation Guide*』を参照してください。

---

### What to do next

ブレードサーバを物理的に再設置する場合は、Cisco UCS Manager にそのサーバを再検出させるために、スロットの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、「[シャーシ内のサーバスロットの再確認, on page 11](#)」を参照してください。

## ブレードサーバからのインバンド設定の削除

この手順では、ブレードサーバからインバンド管理 IP アドレスの設定を削除します。このアクションがグレー表示されている場合、インバンド設定は完了していません。

## 手順

---

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] > [Server Name] の順に展開します。
- ステップ 3 [Work] 領域の [Inventory] タブをクリックします。
- ステップ 4 [CIMC] サブタブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Delete Inband Configuration] をクリックします。
- ステップ 6 [Delete] の確認ダイアログボックスで [Yes] をクリックします。

サーバのインバンド設定が削除されます。

(注) Cisco UCS Manager でインバンド サービス プロファイルがデフォルト VLAN とプール名で設定されている場合、ここでインバンド設定を削除した約1分後、サーバCIMCが自動的にインバンドプロファイルからインバンド設定を取得します。

---

# ブレードサーバの解放

## Procedure

---

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 稼働を停止するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。
  - a) [Decommission] をクリックします。
  - b) [OK] をクリックします。

サーバが Cisco UCS構成から削除されます。

---

## What to do next

ブレードサーバを物理的に再設置する場合は、Cisco UCS Manager にそのサーバを再検出させるために、スロットの確認応答を再び行う必要があります。

詳細については、「[シャーシ内のサーバスロットの再確認, on page 11](#)」を参照してください。

## 存在しないブレードサーバエントリの削除

サーバを解放してサーバハードウェアを物理的に取り外したら、次の手順を実行します。この手順では、**[Decommissioned (デコミッション)]** タブからブレードサーバの既存の古いエントリを削除します。

### 手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2** [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。
- ステップ 3** リストから削除する各ブレードサーバの行で、[Recommission] カラムのチェックボックスをオンにしてから、[Save Changes] をクリックします。
- ステップ 4** 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。

## ブレードサーバの再稼動

### 手順

- ステップ 1** [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2** [Equipment] ノードを展開します。
- ステップ 3** [Chassis] ノードをクリックします。
- ステップ 4** [Work] ペインで [Decommissioned] タブをクリックします。
- ステップ 5** 再稼動する各ブレードサーバの行で、[Recommission] カラムのチェックボックスをオンにしてから、[Save Changes] をクリックします。
- ステップ 6** 確認ダイアログボックスが表示されたら、[Yes] をクリックします。
- ステップ 7** (任意) サーバの再稼動と検出の進行状況を、そのサーバの [FSM] タブでモニタします。

## シャーシ内のサーバスロットの再確認

物理ハードウェアをシャーシから取り外さずにブレードサーバをデコミッションした場合、Cisco UCS Manager にサーバを再検出させて再稼働させるために、次の手順を実行します。

### Procedure

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 スロットを再確認するサーバを選択します。
- ステップ 4 Cisco UCS Managerに [Resolve Slot Issue] ダイアログボックスが表示された場合は、次のいずれかの手順を実行します。

オプション	説明
[Situation] 領域の [here] リンク	このリンクをクリックして、確認ダイアログボックスで <b>[Yes]</b> をクリックします。Cisco UCS Manager がスロットを再認識し、スロット内のサーバを検出します。
<b>OK</b>	[General] タブに移動するには、このボタンをクリックします。 [Actions] 領域の [Reacknowledge Slot] リンクを使用すると、Cisco UCS Managerでスロットを再確認し、スロット内のサーバを検出できます。

## 存在しないブレードサーバの設定データベースからの削除

サーバを解放せずにサーバハードウェアを物理的に外した場合は、次の手順を実行します。サーバが物理的に存在する場合はこの手順を実行できません。

サーバを物理的に削除するには、[シャーシからのサーバの削除, on page 9](#) を参照してください。

### Procedure

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 設定データベースから削除するサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。
- ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、[Remove] をクリックし、[OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager は、設定データベースからそのサーバに関するすべてのデータを削除します。サーバスロットは、新しいサーバハードウェアの挿入に使用できます。

## ブレードサーバのロケータ LED の切り替え

### Procedure

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、次のいずれかをクリックします。

- [Turn on Locator LED] : 選択したサーバの LED を点灯します。
- [Turn off Locator LED] : 選択したサーバの LED を消灯します。
- [Turn on Master Locator LED] : Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバで、マスター ノードの LED を点灯します。
- [Turn off Master Locator LED] : Cisco UCS M4 ブレードサーバで、マスター ノードの LED を消灯します。
- [Turn on Slave Locator LED] : Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバで、スレーブ ノードの LED を点灯します。
- [Turn off Locator LED] : Cisco UCS B460 M4 ブレードサーバで、スレーブ ノードの LED を消灯します。

## ブレードサーバのローカル ディスク ロケータ LED のオン/オフ切り替え

### 始める前に

- ディスクが配置されるサーバの電源が投入されていることを確認します。サーバがオフの場合、ローカル ディスクのロケータ LED のオン/オフを切り替えることはできません。

### 手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 ローカル ディスクのロケータ LED のオン/オフを切り替えるサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[Inventory] > [Storage] > [Disks] タブの順にクリックします。  
ストレージコントローラ インベントリが表示されます。
- ステップ 5 ディスクをクリックします。  
ディスクの詳細が表示されます。
- ステップ 6 [Details] 領域で、[Toggle Locator LED] をクリックします。  
[Locator LED] の状態が [On] の場合は、[Off] に切り替わります。[Locator LED] の状態が [Off] の場合は、[On] に切り替わります。
- ステップ 7 [Save Changes] をクリックします。
- 

## ブレードサーバの CMOS のリセット

場合によっては、サーバのトラブルシューティング時に、CMOSのリセットが必要になることがあります。CMOSのリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。

### Procedure

---

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ 3 CMOS をリセットするサーバを選択します。
- ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
- ステップ 5 [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
- ステップ 6 [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CMOS] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 

## ブレードサーバの CIMC のリセット

ファームウェアの場合、サーバのトラブルシューティング時に、CIMCのリセットが必要になることがあります。CIMCのリセットは、通常のサーバメンテナンスには含まれません。CIMCのリセット後、CIMCは、そのサーバで実行中のバージョンのファームウェアを使ってリブートします。

CIMC をリセットすると、CIMC がリブートするまで、Cisco UCS の電力モニタリング機能が短時間使用不能になります。通常は 20 秒しかかかりませんが、その間にピーク電力制限を超える可能性があります。低い電力制限が設定された環境で、設定された電力キャップを超えないようにするには、CIMC のリブートまたはアクティブ化を交互に実施することを検討してください。

### Procedure

---

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
  - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
  - ステップ 3 CIMC をリセットするサーバを選択します。
  - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
  - ステップ 5 [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
  - ステップ 6 [Recover Server] ダイアログボックスで、[Reset CIMC (Server Controller)] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 

## ブレードサーバの TPM のクリア

TPM がサポートされている Cisco UCS M4 以降のブレードサーバおよびラックマウントサーバでのみ、TPM をクリアできます。



### Caution

TPM のクリアは危険性のある操作です。OS が起動を停止することがあります。また、データを損失する可能性もあります。

---

### Before you begin

TPM が有効である必要があります。

### Procedure

---

- ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
  - ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
  - ステップ 3 TPM をクリアするサーバを選択します。
  - ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。
  - ステップ 5 [Actions] 領域の [Recover Server] をクリックします。
  - ステップ 6 [Recover Server] ダイアログボックスで、[Clear TPM] をクリックし、[OK] をクリックします。
- 

## ブレードサーバの POST 結果の表示

サーバとそのアダプタに対する Power On Self-Test プロセスで収集された任意のエラーを表示できます。

## Procedure

---

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 POST の結果を表示するサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で [View POST Results] をクリックします。

[POST Results] ダイアログボックスに、サーバとそのアダプタに対する POST の結果が一覧表示されます。

ステップ 6 (Optional) アダプタのプロパティを表示するには、[Affected Object] カラムをクリックします。

ステップ 7 [OK] をクリックして [POST Results] ダイアログボックスを閉じます。

---

# ブレードサーバからの NMI の発行

システムが応答しないままになっており、Cisco UCS Manager で、CIMC から BIOS またはオペレーティングシステムに NMI（マスク不能割り込み）を発行する必要がある場合は、次の手順を実行します。このアクションにより、サーバにインストールされているオペレーティングシステムに応じて、コア ダンプまたはスタック トレースが作成されます。

## 手順

---

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 NMI を発行するサーバを選択します。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[Server Maintenance] をクリックします。

ステップ 6 [Maintenance] ダイアログボックスで、次の手順を実行します。

a) [Diagnostic Interrupt] をクリックします。

b) [OK] をクリックします。

Cisco UCS Manager BIOS またはオペレーティングシステムに NMI を送信します。

---



# ブレードサーバのヘルスイベントの表示

## 手順

- ステップ1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。
- ステップ2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。
- ステップ3 ヘルスイベントを表示するサーバを選択します。
- ステップ4 [Work] ペインで、[Health] タブをクリックします。

このサーバでトリガーされたヘルスイベントが表示されます。このタブのフィールドは次のとおりです。

名前	説明
[Health Summary] 領域	
[Health Qualifier] フィールド	コンポーネントに対してトリガーされるすべてのヘルスイベントのカンマ区切りの名前。
[Health Severity] フィールド	コンポーネントに対してトリガーされるすべてのステータスイベントの最高重大度。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"><li>• <b>critical</b></li><li>• <b>major</b></li><li>• <b>minor</b></li><li>• <b>warning</b></li><li>• <b>info</b></li><li>• <b>cleared</b></li></ul> (注) 重大度レベルが最高のものから順に記載されています。
[Health Details] 領域	

名前	説明
[Severity] カラム	ヘルス イベントの重大度。次のいずれかになります。 <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>critical</b></li> <li>• <b>major</b></li> <li>• <b>minor</b></li> <li>• <b>warning</b></li> <li>• <b>info</b></li> <li>• <b>cleared</b></li> </ul> (注) 重大度レベルが最高のものから順に記載されています。
[Name] カラム	ヘルス イベントの名前。
[Description] カラム	ヘルス イベントの詳細。
[Value] カラム	ヘルス イベントの現在の値。
[Details] 領域	[Details] 領域には、[Health Details] 領域で選択するヘルス イベントの [Name]、[Description]、[Severity] および [Value] の詳細が表示されます。

## Health LED Alarms

The blade health LED is located on the front of each Cisco UCS B-Series blade server. Cisco UCS Manager allows you to view the sensor faults that cause the blade health LED to change color from green to amber or blinking amber.

The health LED alarms display the following information:

Name	Description
<b>Severity</b> column	The severity of the alarm. This can be one of the following: <ul style="list-style-type: none"> <li>• <b>Critical</b>—The blade health LED is blinking amber. This is indicated with a red dot.</li> <li>• <b>Minor</b>—The blade health LED is amber. This is indicated with an orange dot.</li> </ul>
<b>Description</b> column	A brief description of the alarm.

Name	Description
Sensor ID column	The ID of the sensor the triggered the alarm.
Sensor Name column	The name of the sensor that triggered the alarm.

## ヘルス LED アラームの表示

### 手順

ステップ 1 [Navigation] ペインで [Equipment] をクリックします。

ステップ 2 [Equipment] > [Chassis] > [Chassis Number] > [Servers] の順に展開します。

ステップ 3 ヘルス LED アラームを表示する対象のサーバをクリックします。

ステップ 4 [Work] ペインで、[General] タブをクリックします。

ステップ 5 [Actions] 領域で、[View Health LED Alarms] をクリックします。

[View Health LED Alarms] ダイアログボックスに、選択したサーバのヘルス LED アラームが一覧表示されます。

ステップ 6 [OK] をクリックして、[View Health LED Alarms] ダイアログボックスを閉じます。

## Smart SSD

Beginning with release 3.1(3), Cisco UCS Manager supports monitoring SSD health. This feature is called Smart SSD. It provides statistical information about the properties like wear status in days, percentage life remaining, and so on. For every property, a minimum, a maximum and an average value is recorded and displayed. The feature also allows you to provide threshold limit for the properties.



**Note** The Smart SSD feature is supported only for a selected range of SSDs. It is not supported for any HDDs.

The SATA range of supported SSDs are:

- Intel
- Samsung
- Micron

The SAS range of supported SSDs are:

- Toshiba
- Sandisk
- Samsung

- Micron

**Note**

- Power-On Hours and Power Cycle Count are not available on SAS SSDs.
- Smart SSD feature is supported only on M4 servers and later.

## SSD ヘルスのモニタリング

### 手順

**ステップ 1** [Equipment (機器)] > [Rack-Mounts (ラックマウント)] > [Servers (サーバ)] > [Server Number (サーバ番号)] > [Inventory (インベントリ)] > [Storage (ストレージ)] に移動します。

**ステップ 2** SSD ヘルスを表示するコントローラ コンポーネントをクリックします。

**ステップ 3** [Work] ペインで [Statistics] タブをクリックします。

**ステップ 4** ヘルス プロパティを表示する SSD をクリックします。

次の値を確認します。

- [PercentageLifeLeft] : 耐用期間を表示します。これにより、必要に応じてアクションを実行できます。
- [PowerCycleCount] : サーバのリポートで SSD の電源が再投入された回数を示します。
- [PowerOnHours] : SSD の電源がオンになっている期間を示します。要件に基づいて SSD を交換するか、またはオフにできます。
  - (注) 他のプロパティが変化した場合は、更新後の [PowerOnHours] が表示されます。
- [WearStatusInDays] : 特定の時点でのワークロード特性に基づいて、SSD の消耗状況に関するガイダンスが示されます。
  - (注) これらの値は 1 時間ごとに更新されます。

これらの値に対してしきい値制限を指定できます。これにより、値がそのしきい値制限に達するかまたは超過するとエラーとなります。Smart SSD 機能は温度を追跡します。温度がしきい値制限 (90°C) を超え、これが原因でディスクが劣化状態になり、劣化の理由が通知されると、エラーを示します。